

授業実践の まとめ

小学校社会科 第6学年

単元名 今日の生活文化につながる室町文化（全4時間）

1 単元について

本単元は、京都の室町に幕府が置かれた頃について、足利義満や義政、雪舟などの人物の働きや、金閣及び銀閣といった代表的な文化遺産、茶の湯や生け花、能などに着目して、諸資料で調べ、まとめることを通して、児童が今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにします。その際、児童が社会的事象から学習問題を見いだすことができるよう資料を精選して提示します。また、「貴族の生活や文化」での学習経験を振り返り、学習問題の解決のための見通しをもつことができるようにします。そして、必要に応じて友達と話し合い、その結果を振り返ってまとめたりするなどの問題解決的な学習が展開できるようにします。

📁 [「単元デザイン FIRST STEP」](#)

2 単元の目標

京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、図や文にまとめ、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画の様子を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を理解している。 ②調べたことを図や文にまとめ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について考え表現している。 ②京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画の様子に関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」の評価規準は、他の単元で設定します。

単元の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb『[学習評価の進め方](#)』、『[学習評価 FIRST STEP](#)』を御参照ください。



4 指導と評価の計画

※太字は、評価の場面となる学習活動を示しています。

時	・学習活動	学習評価	
		指導に生かす評価	記録に残す評価
1	・絵画や写真、年表などの資料を基に話し合い、学習問題を設定する。 ・学習問題の追究・解決に向けた学習計画を立てる。	発言内容(思－①)	ワークシートの記述内容、 発言内容(態－①)
2 ・ 3	・代表的な建造物について調べる。 ・代表的な絵画について調べる。 ・この頃の文化の様子について調べる。	ワークシートの記述内容、 発言内容(知－①)	
4	・調べたことを比較・分類して整理し、関連図としてまとめ、京都の室町に幕府が置かれた頃に生まれた文化の特色について考える。 ・学習問題について話し合い、考えを文にまとめる。		関連図の内容(思－②) ワークシートの記述内容 (知－②)

📄 本単元の詳細については「[学習指導プラン](#)」を御参照ください。

指導と評価の計画の作成については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb「[学習評価の進め方](#)」,「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。



5 本単元における指導と評価の実践

1：課題を把握する段階(1時)

前半では、児童の学習に対する必然性や主体性を高めることができるよう、児童の気付きや疑問が生まれる資料を提示し、児童が出し合った気付きや疑問を基に、単元の学習問題を設定しました。

後半では、児童が学習問題を追究・解決する見通しをもつことができるようにするために、学習計画を立てる活動を設定しました。その際、児童と既習事項を確認したり他教科等での学びを想起したりするやり取りを行うことで、課題解決の見通しをもつことができるようにしました(資料1)。

学習問題 京都の室町に幕府が置かれたころに生まれた文化には、どのような特色があるのだろうか。



学習問題の解決に向けて、学習計画を立てましょう。
そのためには、どのような方法で調べると解決できそうですか。



教科書と資料集を使って調べます。
両方に書かれていることだと、説得力が増すからです。



根拠が複数あると、説得力が増しますね。
文化については、ほかの教科でも学習したことがありますか。



4年生のときに国語で「和室」について学習しました。
国語の教科書で調べたら、何か関係がありそうだと思います。



ほかの教科等の学習と関連付けると、理解が深まりますね。



「貴族の生活や文化」の学習では、文化の特色について考えました。そのときの学習を振り返ってみようと思います。



これまでの学習を生かすことは、とても大切です。
これらの調べる方法を基に、学習計画を立てましょう。

資料1 学習計画を立てるまでの児童とのやり取り

話し合いを通して、学級全体で調べる方法を共有したことにより、多くの児童が学習計画を立てることができました。学習計画を立てることができていない児童には、教師が個別に声掛けをし、課題解決の見通しをもつことができるようにしました(資料2)。



学習計画を立てることはできていますか。
困ったことはありませんか。

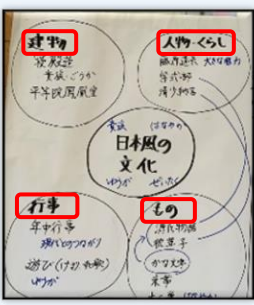
「貴族の生活や文化」の学習を基に学習計画を立てようと思いますが、どのような学習をしたのか思い出すことができません。



「貴族の生活や文化」の学習では、どのような視点で調べると文化の特色が分かりましたか。教室掲示で確認してみましょう。



人物や建物について調べたことを基に、文化の特色を考えたことを思い出しました。今度は人々のくらしも調べてみようと思います。



調べる視点の例

資料2 児童Xとのやり取りと既習事項「貴族の生活や文化」の学習を想起するための教室掲示

また、友達のを参考にするよう促すことで、自身の学習計画に生かすことができるようにしました。その際、1人1台端末を効果的に活用しました。具体的には、1人1台端末上で児童全員のワークシートを共有し、必要に応じて友達のワークシートを参照することができるようにしました(次頁資料3)。

学習計画を立てましたが、これだけで学習問題を解決できるかどうか不安です。

では、立てた学習計画について友達と考えを交流してみましょう。ワークシートは1人1台端末で共有しています。友達の学習計画は、そこでも確認することができますよ。

1人1台端末で友達のワークシートを確認すると、人物や人々のくらし、建物について学習計画を立てていることが分かりました。私は、学習計画に建物について書いていなかったの、建物を加えて調べてみようと思います。

友達の考えを学習計画に生かすことができ素晴らしいですね。次の時間からも、友達と意見を交流しながら学習問題を解決していきましょう。

【学習計画①】どのような人物が活躍したか。	【学習計画②】どのようなくらしをしていたか。	【学習計画③】どのような建物が建てられたか。
-----------------------	------------------------	------------------------

資料3 児童Yとのやり取りと、児童Yが立てた学習計画

それぞれの児童が立てた学習計画について学級全体で話し合いました。その際、児童の発言を教師が問い返したり価値付けしたりしました。そうすることで、児童は一人一人が立てた学習計画を基に、次時からの課題追究に向かうことができるようにしました(資料4)。

一人一人が立てた学習計画についてみんなで話し合います。

どのような人々が文化に関わっていたのかを調べます。

どうしてそのことを調べようと思ったのですか？

「洛中洛外図屏風」には、京都のまちとそこにくらす人々のようすが描かれています。人々のくらしを調べると、文化の特色が分かったからです。

資料を基に学習計画を立てることができていますね。ほかにはどうですか？

この時代に生まれた文化が、現代までどれくらい残っているかを調べたいです。祇園祭も現在まで続いています。まずは、年表にある能や狂言について調べます。

資料と資料を関連付けて予想することができていますね。友達の考えを参考に、自分の学習計画に生かしてみましょう。

この時代に生まれた文化が、現代までどれくらい残っているかについて学習計画に追加して調べてみようと思います。

資料4 一人一人が立てた学習計画を基に学級全体で話し合う一場面

学級全体での話し合いを基に、児童は自身の学習計画の追加や修正を行いました。教師は一人一人の児童が立てた学習計画を基に、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について記録に残す評価を行いました。

＜「主体的に学習に取り組む態度」の評価を単元のはじめに位置付けた意図と、記録に残す評価を行った理由＞

小学校社会科で大切にされている課題を追究したり解決したりする活動（問題解決的な学習過程）を充実させるためには、児童が主体的に学習をスタートできるようにすることが重要です。そこで、児童が学習問題の追究・解決に向けた学習計画を立て、課題解決の見通しをもとうとしているかを教師が見取るために、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を単元のはじめである1時に位置付けました。

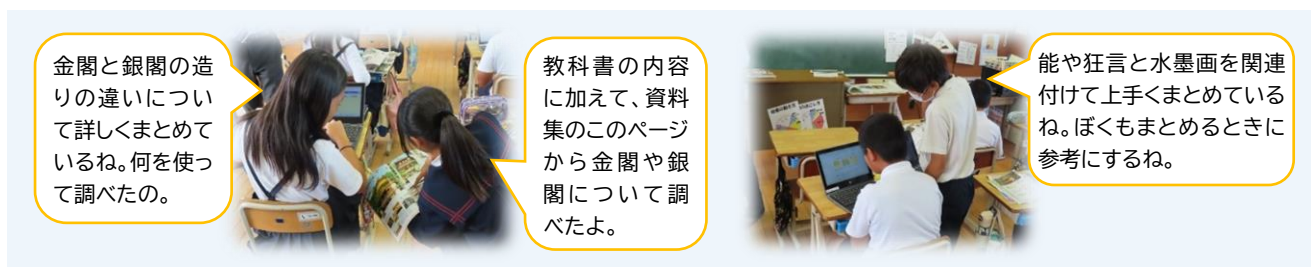
また、「内容のまとまり」ごとに長期的な視点で指導と評価の計画を立てているため、本単元の1時において「主体的に学習に取り組む態度」の記録に残す評価を行いました。具体的には、児童が既習事項である「貴族の生活や文化」の学習で身に付けた資質・能力を生かし、学習計画を立て、課題解決の見通しをもとうとしているかについて、記録に残す評価を行いました。

2：課題を追究する段階(2・3時)

児童が課題解決に向けて必要な情報を集め、読み取り、調べたことを図や文にまとめることができるようにするために、一人一人が立てた学習計画を基に調べる活動を設定しました。その際、児童同士で意見を交流することができる場を提供したり、学習計画の内容を明確にするために教師が児童へ個別に声掛けを行ったりしました。

(1) 児童同士で意見を交流することができる場の提供

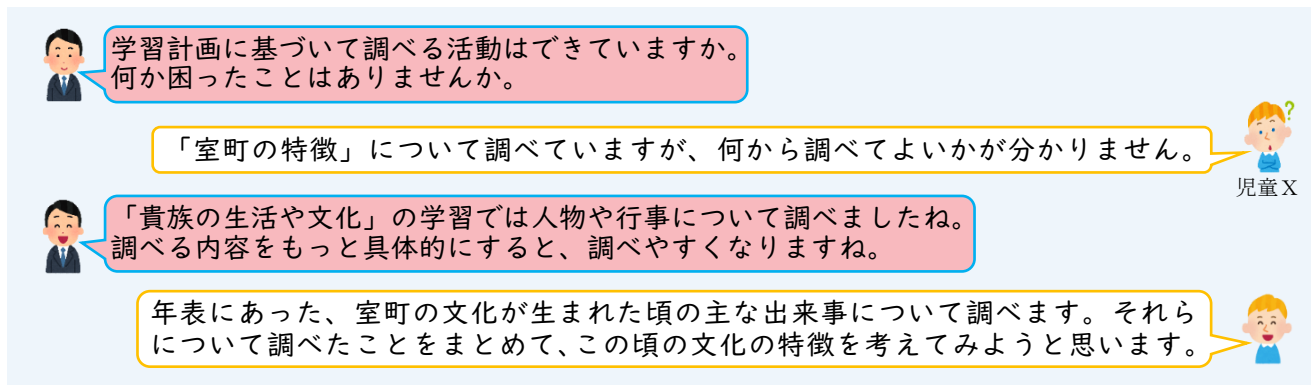
調べたことを基に、必要に応じていつでも児童同士で意見を交流することができる場を提供しました。そうすることで、児童が自身のこれまでの学習状況を確認することができるようにするとともに、調べたことを追加したり、友達のまとめ方を参考にしたりすることができるようにしました(資料5)。



資料5 課題解決のために児童同士で意見交流している様子

(2) 学習計画の内容を明確にするための教師の声掛け

1時に立てた学習計画の内容が曖昧であったため、調べる活動が停滞している児童の様子が見られました。そこで、そのような児童には個別に声掛けをしました(資料6)。そうすることで、学習計画の内容が明確になり、必要な情報を集めることができるようになりました(資料7)。



資料6 学習計画の内容が曖昧な児童に対する教師の声掛けの例

1 時終了時における児童Xのワークシート		
【学習計画①】 室町時代の政治のしくみ 【調べたこと】	【学習計画②】 <u>室町の特徴</u> 【調べたこと】	【学習計画③】 足利氏 <u>との関係</u> 【調べたこと】
2 時終了時における児童Xのワークシート		
学習計画の修正		
【学習計画①】 室町時代の政治のしくみ 【調べたこと】 ・足利尊氏が征夷大将軍になり、京都に幕府を開いた。 ・足利義満は、力をつけてきた大名をおさえ将軍の権威を高めた。	【学習計画②】 <u>主な出来事</u> 【調べたこと】 ・祇園祭が始まり、今も続いている。 ・能や狂言、茶の湯や生け花が盛んになり、いまでもこの文化は、続いている。 ・三代将軍の義満が金閣を建てた。	【学習計画③】 <u>足利氏について</u> 【調べたこと】

資料7 児童が記述したワークシートの変容

3：課題を解決する段階(4時)

児童がこの頃の文化の特色を考え、適切に表現することができるようにするために、課題を追究する段階で調べたことを比較・分類して整理し、関連図としてまとめる学習活動を設定しました。また、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするために、関連図にまとめた内容を基に全体で話し合い、考えを文にまとめる学習活動を設定しました。

(1) この頃の文化の特色を考え、適切に表現するために

児童は、課題を追究する段階で分かったことを、1人1台端末上のワークシートの付箋に入力し、その付箋を動かしたり、ワークシートに書き込み、グルーピングしたりしながら整理して関連図としてまとめました。なお、この頃の代表的な建造物や絵画について調べることはできているが、そのことを関連図としてまとめることができていない児童には、教師が以下のように友達の考えを参考にするよう促すことで、京都の室町に幕府が置かれた頃に生まれた文化の特色を見いだすことができました(資料8)。



調べたことを関連図にまとめることはできていますか。何か困ったことはありませんか。

調べたことを、関連図にまとめるのが難しいです…。



友達のワークシートを参考にしてみましょう。

(Yさんのワークシートを見ながら)
どうしてYさんは、「書院造」と「食事の習慣」をグルーピングしているの。



「書院造」が現在の和室の基になったことと、「食事の習慣」が1日3回になったことがどちらも現在に受け継がれていると考えたからです。
このように、調べたことの共通点を見付けてみるといいですよ。



なるほど。Yさんのように、調べたことの共通点を見付けると、この頃に生まれた「田楽」や「建築様式」が発展して今も続いている文化だと言えそうです。



そうですね。友達の考えを参考にして調べたことを関連付けて、文化の特色を見いだすことができましたね。

資料8 友達の考えを参考にするよう促すことで、関連図としてまとめることができるようになった一場面

4時は、関連図の内容から、思考・判断・表現②の「この頃の文化の特色を考え、適切に表現しているか」について評価しました。具体的には、京都の室町に幕府が置かれた頃に生まれた文化について調べたことを比較・分類して整理し、関連図としてまとめ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを表現することができるかどうかを評価しました(資料9)。

【学習計画①】 室町時代に生まれた文化 【調べたこと】 生け花、茶 茶を飲む習慣が町や村に広がり書院造の床の間に飾る生け花が盛んになった。 田楽 田楽のときに働く人々を励まし、楽しませる田楽やこっけいな踊りをする猿楽が能や狂言へと発展した。	【学習計画②】 室町の発展 【調べたこと】 村全体で力を合わせて米づくりを行い、共同で用水路を整えたりその土地に適した稲の品種を選んだりして収穫量を増やした。 農具や織物、紙すきなどの手工業も発展しそれらを作る職人もあらわれてきた。	【学習計画③】 書院造 【調べたこと】 東求堂の四畳半の部屋はふすまや障子でしきられていて畳が敷き詰められている。このような建築様式を書院造といい今の和室のもとになった。
---	---	--

今日まで続いている文化

【分析及び評価】
児童Xは、調べたことを関連付けて、この頃の文化は今日まで続いているという特色を見だし、そのことを記述していることから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断しました。

資料9 課題を解決する場面において、文化の特色を考え、適切に表現しているかを評価した一場面

(2) 今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解するために

関連図にまとめたことを基に、学級全体で話し合う活動を行いました(次頁資料 10)。その際、学習問題に対する自分の意見をワークシートにまとめることができていない児童のために、話し合いで出た児童の考えを板書に残しました(資料 11)。そのような学習活動や指導の手立てを取ることで、児童は友達の考えを参考にして、この頃の文化の特色について多角的に考え、理解を深めることができました。



この頃に生まれた文化の特色について、関連図にまとめたことを基に、みんなで話し合しましょう。

東求堂の書院造は和室のもになっています。祇園祭と同じでこの頃に生まれた文化は、今日まで続いているものもあります。

雪舟は水墨画を数多く描きました。また、茶の湯や、書院造の床の間を飾る生け花などの文化が生まれ、それらは今日も多くの人に親しまれています。



この頃に生まれた文化は、今日の生活文化につながっているという特色が分かりましたね。では、これらの文化はどうして今日まで続いているのでしょうか。

足利義満が文化や芸術を積極的に保護したからだと思います。将軍が、文化を保護したから今日まで続いていると思います。

貴族の文化と違って、町や村の人など、多くの人々が文化に関わるようになったからです。人々の生活に根付いたことで、今日まで続いたと考えます。

「落ち着いた部屋でお茶を飲んで心を落ち着けるといった習慣を大切にする」などという日本人のものの考え方に合っていたのだと思います。

この頃の文化が今日も続いている理由は、様々な人々が文化に関わるようになったことや、日本人のものの考え方に合っていたからだろうな。

児童 Y

資料 10 友達との話し合いを通して文化の特色について多角的に考える例

資料 11 4時の板書

ここでは、ワークシートの記述内容から知識・技能②の「今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解しているか」について評価します。具体的には、学習のまとめの記述内容から、社会的事象の特色や意味を指す概念的な知識が身に付いているかどうかを評価します(次頁資料 12)。児童 X は、課題を把握する段階や課題を追究する段階で学習計画を明確に立てることができていませんでした。そこで、教師が適宜声掛けを行うことで、その後の学習が順調に進み、課題を解決する段階では、この頃

の文化の特色を理解することができました。児童Yについては、課題解決の見通しをもつ段階で、友達の考えを参考に学習計画を立てることができました。それに加えて、課題を解決する段階では、学級全体での話し合いを通して、この頃の文化が今日まで続いている理由も考えて記述することができました。

(7)「おおむね満足できる」状況(B)と判断したポイントの例(児童X)

【学習のまとめ】京都の室町に幕府がおかれたころに生まれた文化は、今日の生活文化につながっているという特色があります。例えば、書院造は現在の和室のもとになっているし、能や狂言は今も演じられているからです。

【分析及び評価】

この頃の文化の特色について、書院造が現在の和室の基になっていることや、能や狂言が今も演じられていることを根拠に記述しています。以上のことから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断しました。

(イ)「十分満足できる」状況(A)と判断したポイントの例(児童Y)

【学習のまとめ】京都の室町に幕府がおかれたころに生まれた文化は、日本人のものの考え方が、水墨画や茶の湯に影響を与えたので今日まで続いている。また、これらの文化が今日まで続いているのは、足利義満などの将軍が文化を保護したことが理由の一つとして考えられる。

【分析及び評価】

この頃の文化が、今日の生活文化につながっていることを書院造や水墨画を基に記述しています。それらに加えて、この頃の文化に日本人のものの考え方が反映していることや、当時の為政者が文化を保護したことを追記しています。以上のことから、「十分満足できる」状況(A)と判断しました。

・下線：教師が本時の評価規準で設定した判断のポイントの該当箇所

資料 12 課題解決場面において、この頃の文化の特色を理解しているかを評価した一場面

6 授業実践を終えて

単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を育成するためには、設定した単元の目標を基に単元の評価規準を作成し、「指導と評価の一体化」の観点から、単元の指導と評価の計画を立てることが大切だと思いました。本実践における成果を3点、課題を1点挙げます。

成果の1点目は、単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を育成することができたかどうかを確認するために、各観点で設定した評価規準を見取るための学習活動を適切に設定することができたことです。このことで、教師が児童の学習状況を見取る場面を意識しながら授業を進めることができました。2点目は、評価規準の判断のポイントを設定して授業に臨んだことです。このことで、教師は判断のポイントを基にしながら児童一人一人の学習状況を見取ることができました。3点目は、「努力を要する」状況(C)と判断した児童に対する指導の手立てを具体的に構想したことです。このことで、学習につまずいている児童に対して適切に指導の手立てを取ることができました。

一方、課題は、児童の学習状況を的確に見取る力を高めることです。児童が学習につまずいている原因を教師が的確に見取ることで、児童に対する適切な指導につなげることができます。それを、児童の学習改善や教師の指導改善につなげることで、児童に身に付けさせたい資質・能力の育成を図ることができると感じました。

本単元の学習後の児童の振り返りには、「昔の文化が現在の私たちの生活の中に残っていることが分かって、びっくりしました」などと、社会科で学習した内容と自分自身の生活とのつながりを実感している記述や、「学習計画を立てることで、見通しをもって調べることができました」といった記述を見ることができました。このことから、児童は学習に対する必然性や主体性を高めて学習に取り組んでいたことが分かりました。本実践を通して、単元のまとまりで指導と評価の一体化を図っていくことの大切さを改めて感じました。

今後も、小学校社会科の目標である公民としての資質・能力の基礎を育成するために、指導改善と学習評価の改善に取り組んでいきたいと思います。